

令和8年3月3日

世田谷区立喜多見小学校
校長 森田 賢 様

世田谷区立喜多見小学校
学校関係者評価委員会
委員長 坂本 雅則

令和7年度 学校関係者評価 報告書

暑い夏、大雪の冬と異常気象の年となり、児童の健康を守り安全な学校生活を送れるよう日々ご尽力いただいた先生方へ厚く御礼申し上げます。

本年度の学校関係者評価結果を下記の通りとりまとめましたので、ご報告します。
今回の学校関係者評価結果を学校運営にご活用いただき、喜多見小学校が一層発展されることを期待いたします。

<学校関係者評価とは>

保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された学校関係者委員会が行う評価を言います。

- 目的・学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ・学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ・学校の教育の質の向上に努めること。

令和7年10月に児童、全児童保護者、及び地域の皆さまにご協力いただき実施された「学校関係者評価アンケート」の調査集計結果及び教員の方々からのヒアリングをもとにその分析・評価を行いました。

<令和7年度 評価委員会総括>

【評価の高かった項目】

○授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(94.7%)

校内研究の取り組みや「せたがや探究的な学び」にある学びのプロセス「(プロセス1) 課題を見出し、把握している(プロセス2) 課題解決の方法を考えている(プロセス3) 協働して学んでいる(プロセス4) 学びを振り返り次につなげている。」を大切にしながら授業が成果を上げている。また、振り返りを大切にしながら授業を展開してきたことで、自分の成長や良さにも目が向くようになってきた。今後も継続して取り組んでほしい。

○先生に注意されたことは、理解できる。(93.1%)

生活指導では一方的に叱るのではなく、なぜそのルールが必要なのかを「考えさせる指導」を行うようにしていることが、数値となって現れてきた。しかし、放課後の遊び等で、公園の遊具の使い方や自転車の乗り方での問題が報告されている。友達との関係についての指導や相談の必要性があるので、人権教育を含めて、楽しい学校生活、友達関係になるよう指導を継続してほしい。また、次年度は特別支援学級の開設もあり、さらなるインクルーシブ教育をお願いしたい。

○学校行事は楽しい。(91.1%)

学校行事について肯定的な意見が児童、保護者共に高い。教員が、児童一人ひとりを大切にした指導を行い、児童に達成感や充実感を与えていることも大きいと考える。今年度は新たな取り

組みの学習発表会ではあったが、概ね良好の評価を得ていた。(学校関係者評価の後に実施)インフルエンザの影響もあったが、全学年発表できたことは大きな成果である。次年度は、展覧会。学習の成果を十分発揮してほしい。

○本校は、メールやホームページ、便りなどで保護者に情報を提供していた。(88.5%)

配布物をペーパーレス化して、すぐるを活用した。配布物が徹底できたことで、評価を得た。紙ベースが必要な方は取りに来るといったやり方は今後も継続していく。

○3プロジェクト(学習・労作・読書)は、子どもにとってよい取り組みである。(85.8・100%)

3プロの評価が高く、保護者や地域の方に取り組みの重要性が認められている。継続して取り組んできた成果が現れている。また、学校側も教員への周知として3プロジェクトの進め方などを確認する機会を設定しプロジェクトを遂行したのも高評価につながったのではないかと。今後も学校・保護者・地域の方々と連携し、児童への学びが深まる機会を継続していく。

次年度は、学校支援コーディネーターのシステムが変わるが、できるだけ今年度のよさが引き継がれていくようにしていく。今後のことも考え、講師謝礼等の面でも検討していく。

【否定的回答の多かった項目】

○タブレットの活用については、学校関係者評価外でも問題となっている。

授業での活用が広まってきたのは確かだが、使用する子どもたちのモラルやデジタルシチズンシップについて身に付けていく必要がある。タブレットを何のために使うのかということや安全面や健康面など多方面からもう一度、学校で指導していく必要がある。ルールについては、児童自身が考えていく。さらに家庭とも協力して、学校でのルールを周知していく。

○本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。(26, 4%)

キャリア未来デザイン教育を周知徹底していく必要がある。今年度、学期に一度キャリアパスポートを持ち帰り、家でコメントをいただくことになった。保護者会や学校便り等でもお知らせをしていたが、周知徹底まで行かなかった。今後、活用方法を含め、キャリアパスポートやキャリア未来デザイン教育について周知していく。

○通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。(32.1%)

交通ルールに関しては、交通ルールの徹底と善悪の判断をきちんとつける力を育てていく必要がある。大きな事故の報告はないが、広がって歩いたり、大きな声で話したり、道路の真ん中を歩いたり危険な状態である。家庭にも協力を仰ぎ指導していく必要がある。また、自転車の乗り方について、安全な乗り方についての指導が必要となっている。

保護者の意識を高めることも大切である。親が側にいなくても子どもを危険から守るために交通ルールを守らせる(危険な行動はとらせない)教育は最重要であると考えている。

《まとめ》

時代の流れとともに、子どもたちを取り巻く環境も変わる中で、大人が弊害と考えるものでも、子どもにとっては学びとなることも多い。喜多見の子どもの良さを伸ばし、子どもの可能性を広げていくためにも、学校・保護者・地域の方々も、時代に合わせて見守っていく必要がある。

学校評価アンケートにおいても、項目の捉え方に親と子のズレが生じている部分も多い。意図した調査ができるよう、今後も学校関係者評価委員会として活発な意見交換をし、喜多見小独自の項目について具体化できるよう検討していきたい。

今後とも、喜多見らしさを大切に、児童のニーズに応じた教育活動を期待するとともに、評価委員会としても、児童にとってのより良い環境づくりをサポートしていきたい。